

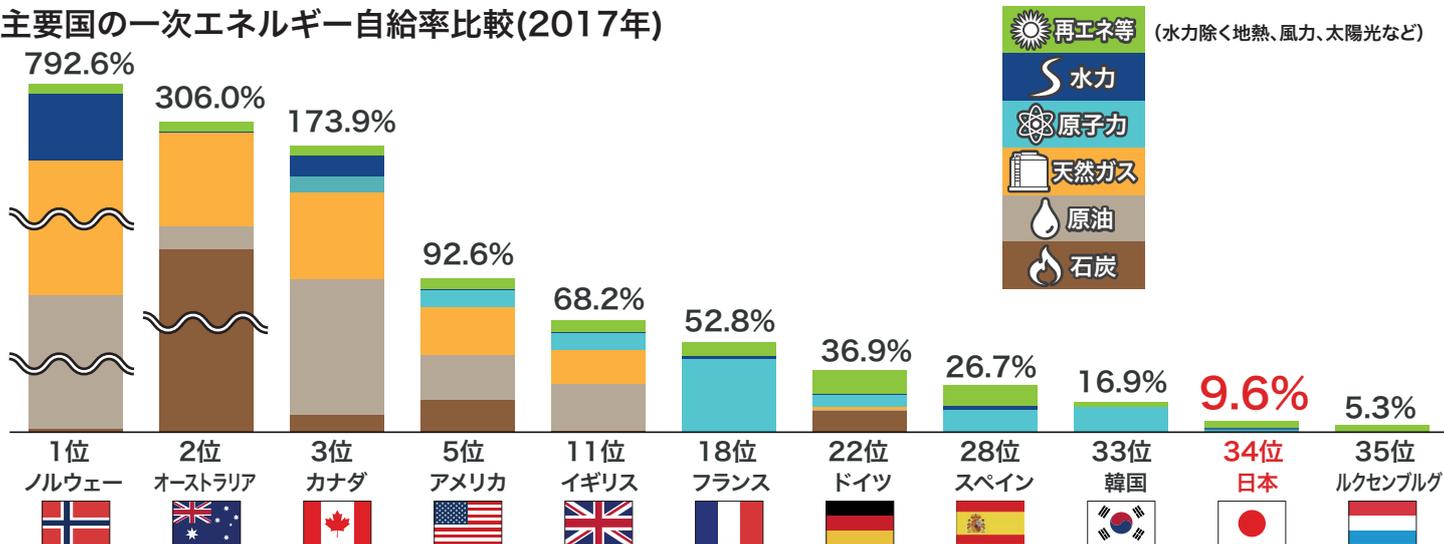
1. 安定供給

エネルギー自給率の推移

Q 日本は、国内の資源でどのくらいエネルギーを自給できていますか？

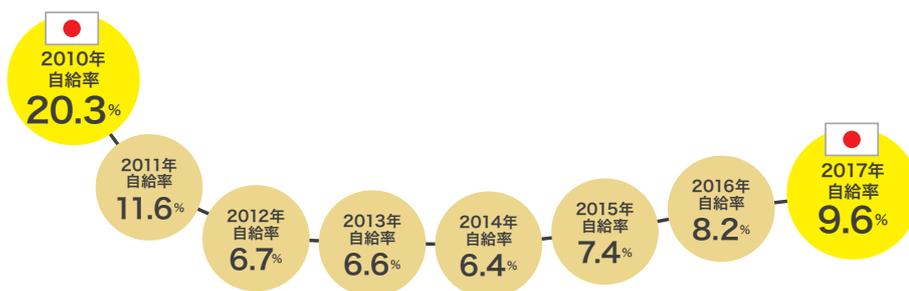
A 2017年の日本の自給率は9.6%で、他のOECD諸国と比べても低い水準です。

主要国の一次エネルギー自給率比較(2017年)



出典:IEA「World Energy Balances 2018」の2017年推計値、日本のみ資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」の2017年度確報値。※表内の順位はOECD35カ国中の順位

我が国のエネルギー自給率



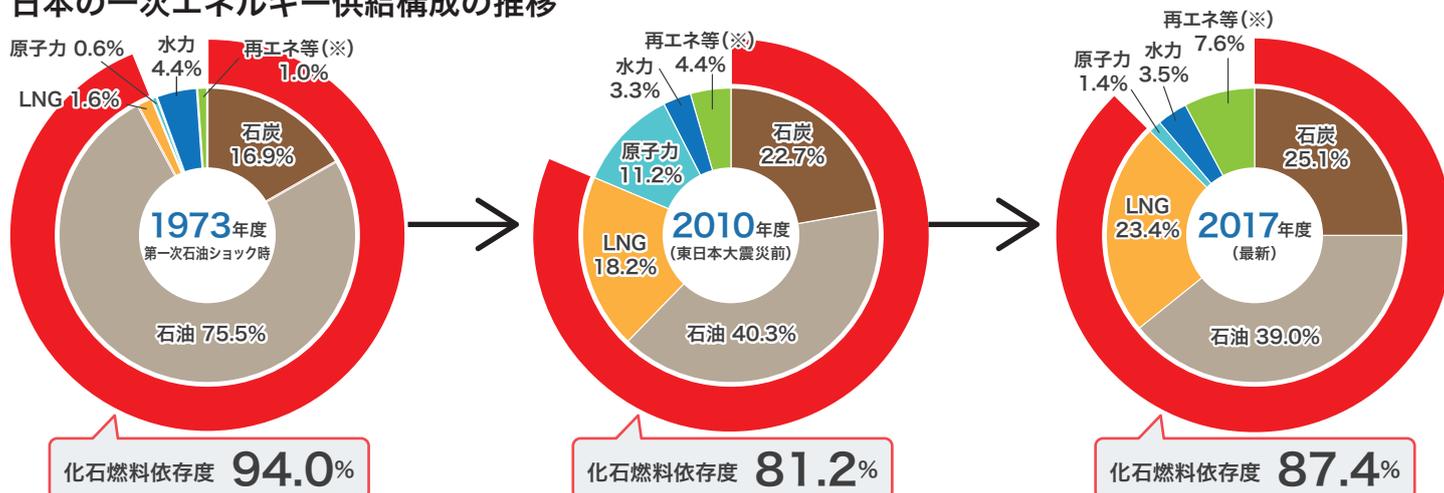
一次エネルギー:石油、天然ガス、石炭、原子力、太陽光、風力などのエネルギーのもともとの形態

エネルギー自給率:国民生活や経済活動に必要な一次エネルギーのうち、自国内で産出・確保できる比率

Q 日本はどのようなエネルギーを利用していますか？

A 海外から輸入される石油・石炭・天然ガス(LNG)など化石燃料に大きく依存しています。東日本大震災以降、化石燃料への依存度は高まっており、2017年度は87.4%です。

日本の一次エネルギー供給構成の推移



出典:資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」

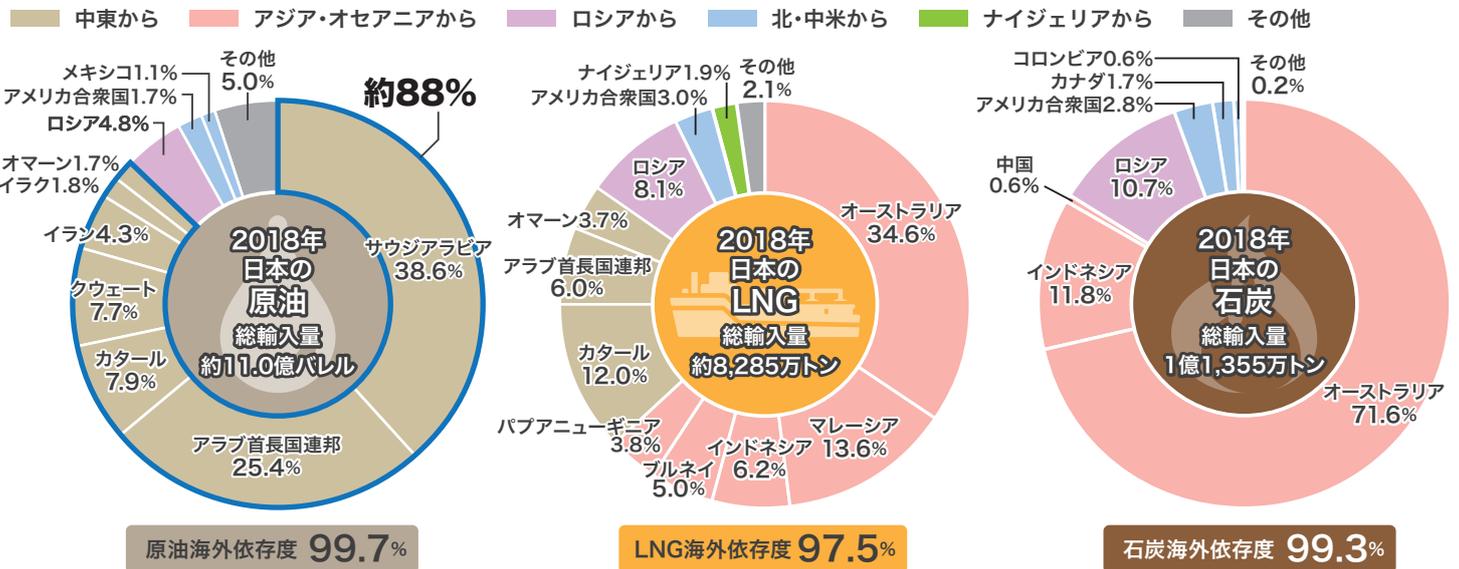
※四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合がある。再エネ等(水力除く地熱、風力、太陽光など)は未活用エネルギーを含む。

資源確保の状況

Q 日本はどのような国から化石燃料を輸入していますか？

A 原油は中東地域に約88%依存しています。LNGや石炭は、中東地域依存度は低いもののアジアなど、海外からの輸入に頼っています。

日本の化石燃料輸入先(2018年)

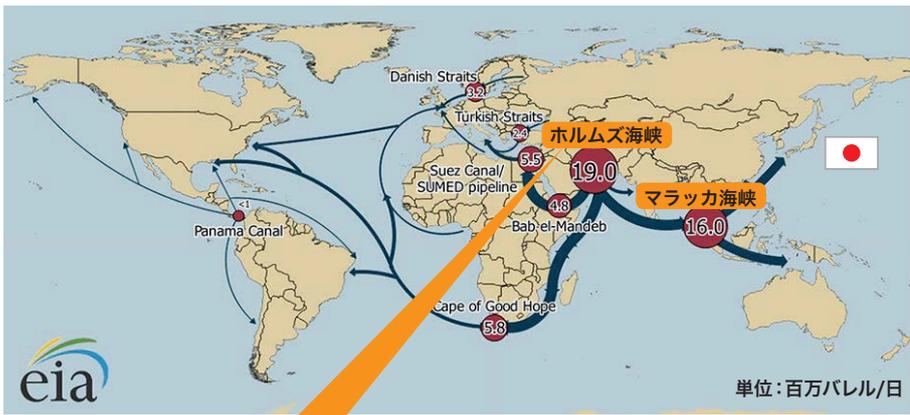


出典：財務省「日本貿易統計」(海外依存度は総合エネルギー統計より)

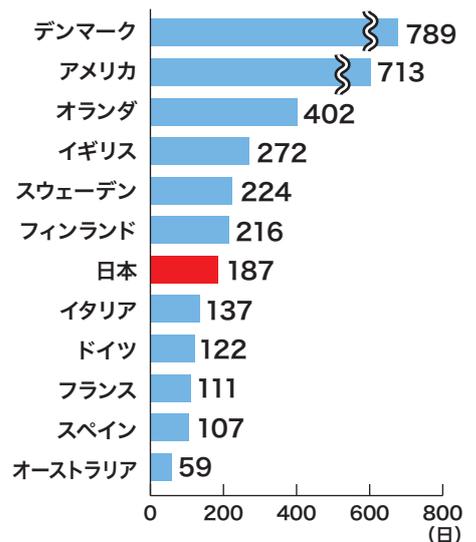
資源の安定確保に向けた取組：原油調達先である中東諸国との関係強化を進める。また、原油に比べ少ないLNGの市場流通量を増やすべく、調達先の多角化、更なる権益獲得に向けた取組を進める。

コラム - 世界の原油の流通と中東情勢の緊迫化

世界の原油の輸送路およびチョークポイント(2016年)



IEA加盟国の石油備蓄日数(2019年)



出典：IEA
※ 日数はいずれもIEA基準で算定。IEA基準は、備蓄法基準で算定した場合よりも、備蓄日数が約2割程度少なくなる。(備蓄法基準で算定した日本の備蓄日数は232日)

ホルムズ海峡は、世界で最も多くの原油が通る重要な輸送路ですが、中東情勢の影響を受けやすいところでもあります。

2019年6月には日本船籍のタンカーも攻撃をうける事案も発生しました。

原油のチョークポイント：世界各国の石油タンカーが多数通過する重要な場所のこと。万一通行不能になれば、世界のエネルギー価格の高騰をもたらすとされている。

問1 日本のエネルギー自給率は他国と比べてどのような特徴がありますか。自給率と構成比から自分の考えをまとめてみよう。

問2 日本のエネルギー自給率は2014年から増加に転じているが、これにはどのような理由が考えられますか。

問3 日本の一次エネルギーの構成比にはどのような特徴が見られますか。

問4 化石燃料の種類によって輸入先が大きく異っていることを理解した上で、今後日本がとるべきエネルギー政策について、自分の考えをまとめてみよう。